国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
番號 和 10412
冊數 10（7）
函號 138 38

二一

内閣文庫
和書
類
一〇四一二
號
冊
架
四
函
三八

和書門
類
一〇四一二
號
冊
一一
架
五
函

和書
一〇四一二
號

博覽

七

宮内庁書陵部

第十三

正應元年三月十五日宮廳りて御所位ありこの
後香園院乃御忠左大臣おとゝ関白よりおさまりぬ。
その〳〵ち近衛殿家基又九條殿左大臣殿忠教ぞうけ
又近衛殿かねすけ殿ひさ。後よ歌園院などゝ
いとこ。げんりうの御ゆゑ。御ゆゑ。太上天皇みかどゝ世をおさめ
ゆゑ。御門の御母三位殿。
うれしかりしかの乃姫君御ゆゑ。
うへのやまのゆきさえ氷ゆゑ。東二条院乃
御ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

うけたりてはえしをやはらせぎしむ。三位殿の
はせうとの公時大納言乃姫君をぞ[illegible]
はせ給ふ。さきの[illegible]ぞ[illegible]
ぞ[illegible]。君とぞ父の殿もいとをしみ
給ふまゝに。後まゐりうゐ[illegible]
実兼乃姫君いつしかまゐり給へ[illegible]
もあり。ぞ[illegible]。六月二日入内ありぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]。たまふぞ[illegible]
えしかどいつれるよりさきにあらせ給ふにぞ
[illegible]もありける。[illegible]
[illegible]母のまゐ[illegible]の内[illegible]

女房ぞ[illegible]。人くををし[illegible]
とのゝ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
あれまゐりうめでぞ。大宮院乃[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]車よりてまつりく。上達部十人殿上人十餘
人。下の[illegible]駿馬人はの松とりて[illegible]車のうしろ
さゝ[illegible]。出車十あ一乃たよ母小[illegible]乃[illegible]と一
源爰右よ二条殿さゝ。あさ[illegible]寄相中将の女大納云
[illegible]。二車左久我大納云雅

忠乃女三条とぞいとかしこまるいまはのぜ
殿上とぞられ人さぶらひてはきたるべきぞあきさすぬ
まくとぞすくさめられ給ひぎまくれる清敏源大
納言雅家乃女三位殿乃大納言実治乃
重乃女右大臣新大納言実治乃
左宰相君房門三位基輔乃女右近衛乃
の女ゆりさきとりしきたいきいのむりしてゐんお
わくるを本乃けいしゐふくれがひもめぐるを
わくいまいしづえはぐさうしはまはるまぞ
みかさちめやもとくおやうちらすうもかた
ゑ乃形くやくのくられあるりぞそれつくる頭中将乃
義朝臣は清盛とて海のうへ乃づくりあう
なりそうり

雲乃うゑ乃ぬるるとめくるんはしめて
ゆきのはるけをかくやくーー
くれるみけうすやうれるじうす乃うめぞは
まれるあ乃関白殿はくむやうきぶとやのさ
ひをけとて郎とんえうまとさる世給ひるれぶつ
りてはくますせくきを海とぞうきまのうーと
あくまとよ又ものぐーたる女のつぞや乗給つるひ寅
数乃中将とてはあるわ給ひーーどいと女御乃
給ふてゐるすわれたちーーまがさるおれうれ

ゐさあれまいりうれはいりぐ
そうゐんぢとりのはもかくまつるか女房のまえひを
ーるまへくこれもとりうのもり一まかさまくれあれ
のひへさこそたてるまもとらうれうと犯あとくちゐ乃
かう後うすえれもぞへうかすきよりあるのじきまるる
まいりたひあまきば義へた遠つ指使侍光うけくまえ
まくくまぐくるとりのせんしじあり駿上へまのりて此車
ひきこ入ぬせうかや中納言公卿別當うゐ殆へりうゐの
ぬおいの方遠つ脇通重ぬせうやよあどくゆるすす
きこゆまきば。ぬびやうゐ弟ぬ来下たくらるひの此元
ゐぬ車よりぬぬゆとゐ二位殿まいり殆ぬ

まいりく殺乃ゆとぐへ法のがりぞのぬとどゐい家後
院のめでたりゐーきひくくやうやてて公卿の大納言さ
ーーくきけかとくやうきくくりーいゐこ
とくやゐりえん。三殺のゐくゐ井も留でてく犯大納言
ぬさーーぬるゐのうへ乃殺犯ゆとぐへめーていせ
殺へるゐ侍さくのをば。二位殿とくりてのぐくせ殺ゐ
て大納言殿と姉くりゐ此手ーいくくて孫殺ゐと
ゐえーぞくくを此殺ゐくくりは殺ゐけめ
八月ゐ殺あくりとてう魚ゐくく殺へだ神に
どもいことあてわぐとゐあくをーいぐさ犯ぞゐを
のくく犯犯ゆとへぐくゐあとくぐ犯ういぐ。二あゐ

かゝる事ありけん大納言どのゝきさゝ[illegible]
こいまの殿二位殿はゝそのぜん女院のゝ一条どのゝ
はゝり殿ゝ女院の君ゝきさゝ[illegible]
ひ給ふ御くらゝ繁(だ)けうぐぶあるゝのかゝきね二条
ゝのゝ殿うゝすゝの殿御ぞ[illegible]あやの殿はゝ
殿ごゝひとゝうゝれゝゝくゝて殿ゝの御びとゝのゝ
殿ゝへゝぶゝいとゝゝどゝゝろ母屋ゝくめでゝゝ殿ゝゝゝ
いゝり殿ゝへゝゝくゝ右大臣内大臣大納言右大将藤山
院中納言権大ゝ殿上人どゝもあゝまゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

すくしまれたる所。所がん行幸てこけとなる。
ゐ所もきさの儀一すくしまれたる所ちひしまの所。
御陪膳一家数。宮ゐ上りいちとけまちのちよて
女房ともをくれ一重がさね唐衣さ所くゐつ一
きるべき儀ゐすくしてすしのたる所ゐきうゐる。
ひとゐ所ゐ一人ゐ所ゐ所ゐ所ゐたさ所ゐ所ゐ所ゐく
せんらひしとりてまいの所。次第にゐ所ゐさてまいし。
ゐの所でれしゐ孫乃かさくられ所そ一條どの
所ゐいせんそのゐち女御殿ゐ所ゐくゐけさ也
殿ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ所ゐ二位殿今出河へまいて殿ゐ
ゐ車乃せんゐ一所ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ

中納言殿ゐ所ゐ乃通重の方ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
まゐなりぬ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
そりゐ所ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
まもゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
乃殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ
殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ殿ゐ

いとめでたくいとかしこしとあるべき事なれどもこれ
も世のの中位をはなれそむきどさいとかしこ
まるべいまいまいあさくあるしすなはちやうの后妃の
位をはなれさまり給てのちはいとかしこ
めでたく人臣大炎院東二条院をはしまして
しかるべきくまつり給へさんそやむごとなきき
月は紅乃なりひとへかさねをきなをあてばかりの
二あり年のかりの衣うすいろの袴をとべて世人あるべき
のりとそむなりぬものりの女房八人ばかりきはは
ひとへのさはやかさひとつさはやかなるものの
ありてもとみあるべしの
ありてはなるべきとあるべかりしかどもきさげお

ぬやとしのうちとしの十一月二日で后乃宮の御ち
右大将よりあり世ひあるべかりしかど世の日四二位に
ひ給ふ大掌會大弐ひあるどのの一ぬさの御世まいる
きりつく中宮宮后炎院ふちあるれくあるべ
しまもば後とんどもすいさんの御ありくかりあり
ま給ふまでめぐりあるくぞれとも十二月まは門乃院
女三位殿院ふりあり綱より准后の宣旨ありてあるべ
ダイリ玄輝門院ともめでたくのりかりきぞ
ひとりく正應も二年はなりぬぞ後ぐめでたき事
ときをおかくて三月廿二日乃殿人朔親の乃幸あり。
本院いりのてとりる殿乃殿よりあるべ御池乃水まで

ゆいて、ぜひとも、どうぞ、まことに、まいりたくし
きかうの、ぢまうして、れく、ぜひ、ふ、兼ておあり、
其六月まで、ゆせ、ぢひ、ろ、ぢ、ぢ、ぢ

ゆとりつゝまだ。ゆづくおとゝ文とゝ。南殿より日ん
しゆのもとゝをゝ一まきげ。面さらへあをゆく方
よ。女孺ゆより来りて格式納言典侍殿新内侍殿を
小かゝうづ。中宮中宮の御ゝゝわゝゝせ給ひられた。対の
殿へ。この殿て。月げ。接殿て。吉日殿へ女房のやうよ
ていゝあやゝれさ。とはゝりていゝせ給ふなゝ
剱璽とりていづ。女孺ハ玄象琵琶ゝりてまげゝ。
まゝゝゝとは中宮の御ゝゝ乃接家殿ゝゝまゝゝ。
常盤井殿へゝゝてめぐゝ。その殿の井ゝゝ
ゝんゝゝ。この御ゝゝてをゝあさゝゝ乃めぐ
ゝゝゝゝゝ。ゝゝ殿の御ゝゝゝゝまゝゝ

さゝれども。たゝゝ人ゝゝ。中宮の御ゝゝ乃さゝゝひの
長かげまのさやいゝゝものゝ。ゝゝゝまゝりゝゝゝゝた
さゝひゝゝゝれどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。殿ゝ二条殿乃御ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きりくうしうされども。ぱちぐあまこーてかしめ
ひとをれども。あれてられ害とれとそえまうさ
とそくこれくりひぐーてをめぐまうけあそのまへ
ぐうしいつきをを六角へつぐけていぐーそわの
くとあるる和り酒麦酒車りてまのぐく帰
ら場所ひくぐ。ぐうるくさぐ又ぱーわ麦月食へある大
くさをれうへ考られぬまばいぐあくぐ中文乃ゑの
御座へ輿よけくく兵湯の陣ぐうりいぐ指ぱまう。
麦文いいくしげ乃広車りて又常般井数へまくせ指
よ中文も麦月食へ行指る世中指すわさうぐぱ
まあとの祭を句。このまぐのよくくりて

きつひぱくすると程よ。三条宰相中将実もりをめ
とられぬ。三条のあり事をとのの中相日ぱまれうけるま
くぐぶのあり事をとのの中相日ぱまれうけるま
てうれあさいくぐがいしくるるとのの事どものぐ
まくく。中院もまくくめ。そぱなどのの事ぐまえる
くぐうくいくきやうおのひあくふかあさ海中
文の御せうと指ぱまふ公卿。一院のぱまへてさるぱ秋
禅林寺数乃広のあくせるるくへ。後鳥羽院乃広
そ姉へとりまぐ。あぐまよりかく前代をまるて
まくりぐせとまくくめまくするゆをゆまくびおぐを
あよりて。せをかくけ路りん乃広ぐをあわぱうあ

あづかりめをたてしゆえさだまさあるやいでまうで
であん院とまづおとこうりしてまつらるる
きとてそあやぶれ兼久乃あり一をひきいでつぐく
ゆ給へだいやく現うあさ海一と扇ぶていの
でうはまでいあむ美あ一ぬゆとくへいくいの元
るとあるあ院乃る紀はうげめをれば法さん寺こ
そいこうれと後ぐこてのうまとんようくあり
まのうれとんてまつりはひておと南よりの作か
どきゑぶさまどのきこゆきたゆ中の院も新院
をあづれどろくぷくあへてこきやうよりあり
きばふうはせんすてころあうちうひさる

はせそこあどあづまのへはうらまれうく嫁でおとこづ
まりりはふぷはくあうる月乃くじめうくさ中の院に
はづてあろを世給ぷくあへまるるる事ぶるありる
あへ一ぷ稚ぎる敷すて屋づてはあ法師あとかく移給
上一院の世ゆうこをれば法れ一対ぷすてあとはもく
一いはをれくこあさでぷくすやうあせる移給
ひめるいとはづめあ一ぷ彈僧るあ一せ給一を
てろうさうろはぎりぷくうとのよけさくけさ世給
あるぷ平一すぎりの一給ひろ法はは若金剛覚とあ
あるぷ新陽明門院とはじめうてまつりてぷくろ乃は
めりうどぐをぷうろ乃はあさあの二位敷るどさび

しき院よりとりておるるさぶらへあるべき業へまゐり
てなどさぶらくちりくよなる程いとびがそ
中務乃文の法むをめはそくちりひくあざやかなり
ぬはおぼえおもしりだせをすてきせ給へきいとて
をとりまれそうはるはるはる

をぞうめさせ給ひおどすりあぬきの乃中れそがら
まいりてぞ物ゝむめくこの二三人ちかどもさせく
ばらの井ばうまつゝせ給うべゝぞおめゞをちよりも
乃うゝ御ゝんるとゝあそいさゝ如をそのりゝく
て人くなくさん給ふぞ物ゝ殿ゝあれる
ひさ乃かうらんよをゝかゝもそ香澤のあゝこの私歌
かり衣ぎりぞといろ乃さゝあきうちてたる歌
ゝきこのてぞあくゝと物がゝりゝつゝいうゝかけめ
まそぐはくゝとはゝてひ給へぐぞんとの中ゆをさ給
ばゝひゝてゝ乃きいゝ人あどきゝ極瞰ぐゝり
なりわまゝむ御ずゝ下ゝ給ゝさゝ給てはこのおゝりわある

かゝゝゝぞんぞゝ乃まゞはゝうゝむゝとゝ給ゝてあり。男
ゝやとおゞゝて御らんゞあはけゝれぐぞゝ月ゝ
ゝそ給ゝ乃ゝ御はあゝくゝあゝまゝぐきゝ事ゝと思
ひゝくゝひゝゝ給ゝの乃ゝあゝまゝわゝ給ゝぐゝすゝこ
ゝくゝてひゝとゝ給ゝあゝめ給ゝんぐゝゝなどゝゝん
ゝはゝまゝゝゆゝはゝくゝゝゝう歌中ゝあゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きぬゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うちあつまりいとひさしくなりぬとおぼしつづけさせたまふ
ものなさけなくうらさびたる海ぶちのくらさまさりぬべ
きもれきこえぬさまどもとりわけどころかすかなるものの
音の響(ね)ばかりにあはれをかけてやうにたきものの
をりにまぎれてそこはかとなくあはれきみちたる
雲ゐのけしきもよそにやけかやうにて
いとどかりそめにてやすらひたまふ
とまれぬべきをりにしばしばかりのみだかるべきにこそ
世間うつりぬるかの契りやとおぼしつづけらるる
もはづかしきをれだいにへもしらぬ
ひとりごとをさかしくおぼしつづけたまふ

[illegible]屋のあるじ。接察の君といふ人
ありけるひとりなりけりぬべくはかなげ
うきてゆゑ多なりもいとうとうしてんげきなりおぼされ
ぬべきをりをりもそこはかとなくひとりやいとあはれ
なる事さへものの折ひとりぬるよはけさく
世はとかはあるべきをりをりにまぎれたちぬべきを
ものをはかなくもあるかなとあはれ
ものの思ひ乱れをやうくもあるさまどもをりをへぬ
れば行ひをしてきものぐるをしきのあるなど
いとあるべきをりにもあるべきあるべき

しそのあわてたくまつりつく牧馬はうこいは
もぐふせのはくまつけまてぶのしてうぶはこの外
しけるうこうまてこそはるもうかんはひろまぶれ
中将はえかしてくてもこ唐乃世まはふものほうれ
まてるまれくぶまぶ一郎んはしてもぐはしせ
御百首乃手すり

位山はりてくを業すはれ

まりのとあをのこすのれ

ほうあはみは内大臣までのりまてさて元亨元
とうとは百首手すくまつまし中すり

あのれえはしこの乃はれひすはて

はりをしてとうをあを照をうる

やとまれはりき房とんやしーはてはせ
のおとるへしー新陽明門院も禅林寺殿のまとの
ハ形ちのくまつまくとしてはくしまんする
杉殿宰相中将よつぐひぐをすりあんはのまの
まはひしー程すりはてまはるれ事和中物乃はるる
世とのはれをるへはりをさ乃はる屏すはるうす
あるはるをるはるはるはるはるはるはるはるはる
知をはそのの姫君はしはめ冨小路乃中納言季雄のは
はるをまてはるせしぶ後すりへ歌壇の桜殿とをて
はひしー事の御るすり基教乃二位中将とやの

えへーなりてうせ給ふまでわたくしきかの女院伊と
をしへ給ひしうたはぞうぬんなどいとくま
うよありきかのをかの海のをかの海のをかの
ていろかのひさごれきはたをさりかるけきどもや
むかしをさる事ありうりとぞろかへのはあり
きの海をものづくりうきき事あるはかりひゆるき
おくそをあるしるをかりてんあそとかりへどぞ思き
人のはくやをいまはくるめのくるかるんぐとてぞ
ありづくりかをとうちをはるるはいづ
ちものろいきれうあるしくかるとへど。
いかくうきはうしかりそかりとろ

石

をはをとうかりかりかをとうかりかなられとをけて
きはひるかををかるをときをゆるかはれたるかるよ
八月十五日夜古乃殺生禁日ひびてををるのそのあり
さ海をしてをかめでるかるかるををのうて殺おるつかの
諸國乃受領どもかとをくろうり長思をくれをあ
をきをてををうちををかるうりとかをるよ將軍や
どめををかりをを上臺部のいうへのをあるるあり殺
上人をといをあるくはるうまるつぶはかをの中樹はを
乃はをなるかをの法指を弼云ゆて右大將をを殺へき
ぶ法師勇どをを殺ををかるををうをれあへかを海
ををめきをかりを海るかりをを海をを本社

うつしぶ。楽園楽師るかい。新参ぶしんなどさま
くあつまりつけるまま。ぶ。千六百ぶ
も打うやうれるあり。機数どもいろめくくしたりか
らへくぶくのまんまくあどひき。将軍は機数の
まへはしらぶ。武士ども形
こねるぶ事ぶ。ぶ。ぶうりてあのまうまうまけうか
るいちよびぶ。ぶ。ぶはけくさ又ぶくかくしそとや
そのちいくはどなくかまくうちさうぶきう
出まくぶれへきまは紙はぶぶめくとのよ行こ
そあまぶ軍ぶ古へまぶきられ給ぶとできゆるめつ
ぶきまとの参るわうぶ。ぶ。ぶくはゆうまりかわとに

女のとんがそく思ひるぶくぶ。ぶたくへぶは位ぶどのりい
ぶ事ぶ。ぶよこるぶ。ぶそのぶ。ぶせぶまふる報
いぶあやぶ。ぶするあぶ。ぶ。ぶとさぶさぶよせ
てのせそまつぶをぶぶかのぶまるぶくぶたこの
ぶまれぶこちまるせてらぶまへはのぶりてそ伊と
ぶりぶくもめでそうくべきまぶぶくあや
ぶきらめぶりぶ。毋人やとあも近清大数とき
あそぶは女ぶぶくこの将軍まてはぶ海
ぶの師息ぶぶ。ぶ。ぶ。ぶ禅林寺ぶの
文の法ぶとぶるぶ。ぶ。ぶ。文永三年ぶより
とまて世宗年ぶ軍ぶそ。ぶ。ぶめとのれ

殆へまぢ。日比なの無とまるべきさぞ抑そ
よそ。たりまてゝおくれ。ぐへされて。ゝとあさまれ
ぬありさ海そのぐりぬよ。ぬとくぬ。うあそれ。
道すぐ。をおぐみぐ。れゝやぬたる。ぐ乃をと
ぬぐう。きそゆ。ぬけさもの。ぬをなるぐ
れと。りぞそこれかりよは。一院の。る。三条内史
長公親乃ぬぬとめ。ぬ通殺とてさぬ。ひぬひ。ぬ
服ぬり。番代の。ぬは。ぬかりのていすすゝ。せをも
くやんでとれぬぬぬありさ海ぬまぐぐ。幻のぬ地
ぞするぬくの。将軍ぬ。ぬとせ。ぬとば。ぬりあ。ぬ
さめていんゝうんぐれるぬぬぐれさ

ぬせんぬむうへよのうゝぬまれ。ぬとひ
人者されの。将軍乃ぬりぬ。れ。道をまうくゝを
まびあと。ぬをあそぐゝもあ。ぬ。ぬとぬそ。の
ぬるぬぬそあまりぬるのやみこい十月二日ぬ。の
服ゝぬ。ぬ人明乃親王とき。ぬ。ぬ十日院ぬりや
ぐそ。ぬりのぬされくゝを。れまれまりぬひゝ。ぬへれ
ゝゝそれゝりぬあぐまぬぬもせぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ゝへぬせぬよ。ぬ。ぬへゝて。ぬゝれ
武士ぐゝうちつまくゝまのぬ。ぬまきれとまん
まん。ぬ。ぬ。ぬ。ぬりくぬんぐゝぬ。ぬ。ぬ
ぐれうちぐ。ぬくまぬまぬのりゝ。ぬ。

ふきのごとくにれをもよれのゆうりぎぬく
きるまゝのゆうぎおさむしゝさだのさゝぬさだてまの
ゆうそびゝかそやうみるまめゝゝいゝめまゝ利友と
くさのかりきぬあとびの馬は金うかりの乃鞍をき
あ。源兵のうめゝくめゝゝうぎゝて出興乃きらはうち
さうゝをゝ文吉は辛ゝゝくゝだ紀まはまうゝべき大名か
どの法うまうゝ法ゝゝ家はまゝゝへめゝゝ。言が狂いわう
ぢんといつるゞ又馬はらんるめくれとゝうめゝきうま
どもう海ゝゝうちのけのいめのるまゝ文の中はうぶゆとは
調度のどいさゝみもいゝゝゝゝ。常秋の文殺もうくゝやと
七重をあつめうくゝみゞ法はうさ海月をかゝあくゝ地

もゝやあゝまはゝきゝはありさ海あるゝ。關の東
とみやゝはゝとそおゝゝゝゝゝゝゝゝをゝゝぎうゝま
おうゝおゝゝゝまゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝうのけあるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぎゝゝゝゝみえゝうり。時系雑記とのひゝをゝゝゝ
かゝ発れうゝて寛光寺は八道とていゝゝたうとく
をゝゝゝゝて世ゝゝゝのうゝゝゝ貞時とのゝ太郎相模の
ゝうのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
将殺のゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝきゝゝゝのうゝ一院市ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はやきこゑのきこえたるゆゝしひすぐしがたしひけるふ禅林寺
殺ぞかしあれはあるいはきらはしかりあるいはぬるかたもあり
さまざまなひぬるものやあり寺まゐ。二月十一日亀山殿の
くらのむしろをさしたまふ。四十八のぞうせられ。
法名素實とぞ。ゆゝしかりしかるべきあるべしはてゝ夕
つかたの人宣旨をうけたまはりてせられまゐらせ
中ぬきの紅梅の中二はしのぎよりあれはひとへなれ
るまゝのうちにまぎれもえぬるのはしもぎぬひとへめれば
てうちきに花山院の御ぞ衣かゝりすゑ御はかせ
まゐらせたるうちにおきなりけるをかぶりまゐ
らせたるまゝにてなりにけりてはひふうつてけりて

はひのうちにふ白くうちてたくさんなりまゐ
陣匂兵衛花山院内大臣師継の女ぞ。あまのもとにれ
なるまゝにひとへに紅梅のうちぎぬをぬぎ
との衣がえうちかけてくあげくはしてむかん
ざしやうにひこれをまゐらせうあるにあるべし
しきやうにはかるとすまゐらせえたるくまの
乃ぞうぬぬくまゝどうにはかりまゐらせ
より石寺の大納言女はざしはかりしはのぐうせたまへ。
ひとくさをうちかくるうちにはぎぐくらはあるむ
まゐりきぬ。山吹のうちぎの表紙きりけてうちぬ
ーはへぬのてふらうあ。ぞまやふうらかう

ゐきたうえ殆ん門院の所そだてまゐらせ
なまひしあひしやなくなくなくなくなくなく
乃さ海まりを思ひあくれ分をまきぬ一ぢの法
ばらまちさ殆ゐまばらあさ海ゐあはあはの
していとやしづゐ稲とものまとはをまゐ
てのきい形ばかりとあるものとまりまゐこちら
あまさおくり海一者ゐかくめぐり始ゐ行よいく
ゐけくろ中文のゐくせ給ゐ代のをいうき
紡幸どを拾ばかりかやどゐつも
とたなゐ事をちぐさう形日ゐどおゐゐり
ばまばかくちものしゐ行ゐくあけ永に者

六年二月ゐりぬ七月廿二日春宮の位ばづりておりて
さまひぬ。新月のなゐて立節乃ぱそとおゐ
いでくろ北ばりよ雲白ゐくおくせかのさくゐ
ばくばくつゐ彩院
をゐるこのちもやとくれそのゐみ
とりゐまきゐ河ゐわを神ゐ
御ゐ歌志園ゐ桜政変
いゐくまゐゐれまのいゐ
川者乃をくとんれよつきくも
播川の奥寺北ばくゐ乃女の所くにさ紀乃彩院の
ゐくやむさ殆ゐ。六月廿七日法皇服して

月十日春宮よりたちたまひぬ。御譲邦治親王
にゆづれたまふ。ときに年三まりなり。御門
十一にあり。御ぐしおろしたまひ。法仁と
かうしたてまつりたまふ。中宮の御腹にて
皇子一人ばかりの御ことにて。ほとほとしくまし
ましたり。ゆゑ。ものの御ことにて。
ゆゑ。ものの御ことにて。
ゆゑ。ものの御ことにて。

しとして。世中ゆづれりとぞいひあつめ
ぬるをぞひしりめりくいとしらくく。枕はきとと
新院とは世はゝ父の院とは中院とはきゝゆゝしの院
を一の院とは。法皇をば一ゝはゝしまんをめ
と。一院の政きこしめせば。天下ゝ人文をゝ一方
よなひきあり給をゝ院ひまへようつ給ひらゝ
世中こゝとあらはゝ。太政門のおゝ内のわゝ
定實六月ゝ太政大臣はなり給ゝいこめでゝ。右大
納言ゝ道顕定乃中さゝ給ゝ中ゝ給ゝ
ゝかいとゆゝ。院の市ばゝゝゝ人なゝゝゝ
ゝあゝくゝおゝゝゝゝゝ。世ゝ用ゝ給ゝ雅

房乃中納言釈迦とゝて。ゝづきをゝあゝ人ゝ
おゝくゝき。おゝ院釈ゝは世中すゝゝゝゝ
きゝく。伊丹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ど。二の宮ゝ城ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
院乃御腹ゝゝ氏姫君。頭親門院とゝゝゝゝ
八月十ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同廿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

中将家定卿の假とあらそひぬるまま
内侍のかみのきれをもて紙代に出川のおとゝにたら
とゝめて出はとゝめるかゝ
さうもの〻ふ大殿中くにたゞ海ゝくてあるう
ゐんをとゝくてこうとゝやとゞ給へやうして
そなたけをくはやうに侍りしかは
ものゝうへも源氏の中服をしてものゝ給へいとあ
つゝるやむこうゐ。されどゝありうゝ海
世はわたしとあるべしりゝかゝ海又乃とゝしハ乾元元

年六月十六日。亀山殿へ行幸あり。御堂いとめつら
しくこまつくとかんさうしてまつ〻せ給へおく月西
ら殿ゐのあるみち法皇しりゐまをせ給へ
きこゝろ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ月とかまこ
雲乃うへ人ゝ新きさいりあるゐ
御ゐ〻ゐ内乃うゐ
天はゝゝゝゝ殿乃くらひたりてけ
あむこんゝのかゝをゝれ
一院い忠継の事わけ女の中納言典侍とゝ服う
をゝわゝゝ女みゝさゝちあゝ
ぐれ給へゐ内親王をいゝゝ好きありかつゝき

さもえさ抜たまへば代もまた又為世乃大納言をはじ
まりて撰集あり。新後撰集にはきこえ侍ぬ。永元年
初ろくせ〜れ。ふくて又乃とり〜巻のはしり東二条院
御かやをはしまりの時分をくいりとりてさせ給
へば。伏見殿へいぐさ抜給ひて仕ようせ給ひ
ぬ。千よあまり〜せ給へば。おとうとの乃宮を
もそのれるばかりなれば。ちいぬるくあきこしめさんか
どあるべしとはじめてぞ心ようしぶ給
ふやうにきこゆ。かぐぶせ月十六日二条富
小路殿にてくれさせ給ひぬ。お年二まそ〜せ給ひ
はべ。いとあはれなりし御ようぶ。

はまごは書文もひとつよれそ〜まりつまばいそ
ぎて御へ御殿ありぬ御法乃壇どもをあくと
こゝぢちてくづまのづ法師乃年ばすでいま
をうぎやとやちあまつ世れるさ海いとりの
ようひるる程ア〜六はう乃貞顕のり御二人ぶと
初よまいまり。帝殿おりてその門乃おの床ようを
うけてさぬ〜ぶさ〜ア乃のどもたちよりあとゆ
さ海ひとまそりげり。又れ日薬よ入さ海菓殿
へいくわ〜たくまつ乃ぶ車ばしよせて御く
ワんのせたてまつれ殿さちとまあ乃ぶ殿侍と
まくりよんあさむる人へ乃院の法ま人文ち

ものこゝろぐるしかりやいかにせんとて
でぬきてうりはらうものつゝ後拾ひくぞそゝめえのがゝせ
たまのうとぞ歩衣乃袖とをもしあてはるゝ小袖
てぞ御車よせてまつわくゝ俄見物へ乃ぞこゝろ
せき後拾ひ寺ぞ院乃うち拾くしぬきでなる紙袋
ゆゝり後深草院とぐきこゆめぞ日数の程へ後え
愛は言たち遊義門院ぞ御つまし状ぞへ物る
くなりめぞものゝ此ぞるこぞひる百ぞくれ
ぞしぞ院ぞ拾義門院

拾をのこゝろ乃ぞ袖ぞ拾ぞんはくゝと

乃ぞ歌をうぞしぞ物ぞりしぞ乃ぞ

春乃ぞてしぞ乃ぞ乃ぞ乃

永福門院の法華つぎの姫君とやうきうをもとぐ
ゐ給なりとぞの法華はまのゝ御たくまつゝ勢
法華堂のしがむくしくるあれまつ法はるやうせ給
むくぞ奏て院号あるべしはる昭訓門院とゆるる給
その法服はたくしばうりあるもまれ給へるとの
ぎりのくうかゝきゐはるおぼされはるおぼさすし
ぶめんさてまつゝ法師びなりめるといみぢう
おぼされあるとぱてゝもあるひなる迷べあるか
ゞ十七日は法ぎのるせ奏給おとりとのひ
なぐらいとゝあるゝくはゝまつりかゝる
にゞ法日きゝ北法事あるに大臣後しせ奏給よる

ぞうゝなる原ゝとゝ海さへてまつり給ふ院の人
も遊はおりゝせ法親王ゝ北ちゝ三人山の座を聖儀侯
十樂院法親王ゝ北ゝ法親王ゝ北ゝ三人山の座を聖儀侯
乃山まで法性せゝ奏給ふ上達部は右大臣左衛
西園寺大納言公顕万里小路大納言嫡重源中納言有
房三條大中納言宗氏の二位雲雅の二位為雅の宰相雅
ちゝ為親氏ゝ殺上人頼後卿信忠氏ゝ為國
房經世泰忠光忠ゝ氏物ゝ衣乃袖とゝ奏ゝくまゝ
きゝ記さへあゝれとゝへゝ院も法性よまのり給
ふ北山法性大納言西園寺中納言左近門大納言法ゝ親
實ゝ將法ゝ刀持て法供せゝ奏給ゝ

はあるべきなれども、いとゝ極めて
おくゆかしきまで煙まてのかわ
らひぬまにぞそれをくゝ蒙れんとてかのぐとの
けはひくゝとふなのくまうでおはします三条大納言入道
万里小路大納言藤原重房どのゝうちにはいりぬく
て御茶びとつれまうでゝ墨染の袖とりかへ
あくつゝはぬゝむおはしかのてよりはゝられく
未草きりたゝひとどせられはまどゝ鶴けさぞも
きんかゝるの勇源の為はそれ〻あるべし。内ちゝん
はは使ゝりはすゝめ長親卿長雅卿有忠卿長方ゝ三
さゝむまいるかゝるきまきいなるへし。かゝるゝきは八日
院乃うへはそつくさそてまるおゝまん殺ゝん

くゝ為き義めてあさそ法華とうけ事なるあさ沢ゝ
乃ゝ為ゝ殺ゝうへの為ゝ殺ゝくゝ為ゝうきう乃ゝ為ゝんくゝ為ゝう
ゝ殺ゝ為ゝさがさひくゝ。おゝゝゝえゝきあさぎは為
ひあゝぎゝ為ゝあいまゝるゝをゝくゝ為き為綱殺ゝゝ
おの為ゝつゝでゝ為ゝくゝ為ゝくゝ為ゝくゝまゝゝ為ゝ殺
駆訓門院駆訓門院為ゝ為ゝ為ゝ為ゝとゝ近清殺ゝ如政所関白殺
如為ゝ。助為親ゝ。ゝゝゝ順助為道性恵行仁性融法
親王ゝゝ上達部を初めの為ゝ為ゝ人ゝくゝ殺
きゝ為の二乃御子の為毎も近為為為ゝゝゝゝて
ゝとゝ為ゝきて准后ゝゝゝゝ

七日のぜんせをおこなひけり。法華経ハ法華堂と
さしてさ堂おなじ。法華山院とぞいへる。禅林寺殿とい
ふ。ひがしの方ハ禅院なり。南禅院とのよ
きさきのまうけなり。院の二ハ代ハ忠雄の宰相のむすめ。今
ハ堀川の中納言の女とぞ
ゆゑなとぞ。ものさとりしきさかりなるつ
てにもとりおとりてぞ。しらるるものさ
しうそ。ぺとりてとゝのおぼ
ぼしめしなるげくべしぞ。ものさと

ちをいとれあるさかりあよ我あてうり
をしはめ主ぬ秋のもみちし
あくれはんあてまつ〜歌詠ひつくえあもいそぐ
なごめらまくかくらんよをしかり詠へ分。夕だく
のはくちりくめでさし。ありつか紅葉を西園寺大
納言公顕のとの御ごろへはつを
あとあ歌あみさかあやあ絶なんん
神ちりはそむる紅葉し
女院の法せうとあ主だまあやれ子法山ぢん寺。
ぢ御しさふはあ〜ぢ詠ふなり。御ぬ事
幾しかの涙のろのそあつまむ。

今ぬ後の紅葉は秋のおもし
時雨はすくあ見あくかよ吹くぞれあまぢ文
御ちうへ入詠ぬくはとのあづちくめしてひか法
嘆ぢはーさ紅法種なるみ法ふ行よ。ろ数よ
人どもうちつまくあ法とあ弁ままの事利。
ひる紅法さの葉ろもそ紅あ歌をへくりあ。
文ぞれはさのくかりはくとのまへ花あ源氏
紅葉もおあくねさ法ふりせそれ
かくあれる弁も御ちやんん
清忠卿
山路のあみそ紅葉をあのろは

[illegible]

光忠新居

世の中なげきのまとまとまりや
あさにうらぬはさらのあるまじ
こうれいをうらめてきさのの内親王乃歌
あてまつり[illegible]きむ
八月[illegible]
うちかんをうれしの別[illegible]
雨うらぬくひあしれるあるあいてうぬ
[illegible]ひのこゑ[illegible]のかず[illegible]
とのごりもあるしへくこれ[illegible]

かうしーあどさくかせたとあくなくあられた
むるくゆせたてかまてたしてさませた
ます

をのはうあるめやもむとはるわ
あくこうれきうるかるの月
はるしーの日
いうしーのまつひるしーひさんい
思ひそそそしまる明北年
月日行あくうたまるまだ院も交くをとの
ちもくよあれたはしすすーあるーざ
まれるはのうちどもはきせどせのるいる

まくばさのこうをいのうぐ。昭雲寺門院いあまてらのえん
ちゃ武蔵国中よりすくれてくうのりきりのよ思ひきこえ
さまはひしりうぐぼうぐぼんなどをいとまらと
大牛のよむりをしてしあれ西院のあるをそこそ
まつりをはへまくばうこよりはしめしあり。門
たちさうのゝ西院などんをは伝ものしぶれところは
ひとんせむじとのこぶやをこむ法門家田町のあるし
院のづまこもひころうを寺よりて伝ものりとぞ。発
てそくこそあれいすり穂

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan